

IETF 116 Yokohamaに 参加してきました

うなすけ (中村 勇介)

*ISOC-JP IETF116報告会
2023-05-25*

自己紹介

- なまえ: うなすけ (中村 勇介)
- しごと: フリーランス (Webアプリケーションプログラマ)
- QUICをRubyで実装しようとしている (道半ば)
- GitHub <https://github.com/unasuke>
- Mastodon <https://mstdn.unasuke.com/@unasuke>
- Twitter https://twitter.com/yu_suke1994



IETF 116 Yokohamaに参加するいきさつ

- RFCというものは知っていた
- IETFやRFCになる前のInternet-Draftに関しては無知
- 社内で「IETF行くぞ！」の発言

「IETF行くぞ！」

- ヘーRFCの発行元がIETF(改めて認識)
- 次は横浜なのか
- ……行くしかない、のかな？

うだうだ期

- 日本とはいえ高い……でも海外行くよりはるかに安い
- QUICを実装しようとしてるんだぞ？
- 国内での開催ってそんな頻繁じゃないぞ？
- 行かいでか！
 - 「うなすけ IETF 116」で検索

問題意識

「どうすればもっと人々がIETFに来てくれるのか」

IETFは知られているのか？

- さすがに“RFC”を知ってる人は多いはず
- ではIETFは？
- RFCがどのようにつくられるのかを人々はいつ知るのが

たとえばRubyKaigiはどうか

- <https://rubykaigi.org/>
- Rubyに関心のある人々の集まり
- RubyKaigi 2023はつい先日長野県松本で開催
 - チケットは1200人分売れた(らしい)

RubyKaigi

- 参加費を会社が出してくれるのはなぜか
 - Rubyを使って開発している
 - 採用目的
 - 楽しい

IETFにあてはめると……？

- IETFでの議題が直接ビジネスに関係するのか？
 - そうでない会社が多数
- IETFに露出が増えて採用に繋がるのか？
 - 「IETFに経費で参加させてくれる」なら、まあ……？
- IETFに参加するとなにが嬉しいのか？

IETFに参加するとなにが嬉しいのか？

- 単純に最新技術が決まっていく場として面白い
- 今、何が問題意識として世の中に出現しているのかがわかる
 - e.g. post quantum certificate
- 「会える」
 - これはオンライン参加にはないメリット

再度RubyKaigiを見してみる

- なぜみんな松本まで行くのか
 - 明日からの業務に役立てられる発表は少ないのに
- なぜ会社は参加を後押ししてくれるのか

楽しそう

- https://twitter.com/search?q=%23rubykaigi&src=typed_query
- https://twitter.com/search?q=%23rubyfriends&src=typed_query

楽しそう

- こうあるべきとは言わない
 - 「なんかキラキラしてて苦手」という感想もわかる
- でも「楽しそう」
 - 「来年は参加してみようかな」

つまりどういうことか

- コミュニティが「いきいき」している
- そのコミュニティに参加すると楽しそう
- 標準化の世界はこわくない
 - 一般に、難しい話をしている場はこわいと思われがち

私達にできること

- 参加記を書く
 - まずはIETF Meetingというものがあることを知ってもらう
 - それが楽しそうな場だと思ってもらう

余談「経費で参加できないんでしょ？」

- 本当に？
- 自分の稼動先では会社負担になった
- 単純に行きたいという人が少なかつただけ……？
- まずは「行きたい！」という声を上げること